

いわき信用組合「新現役交流会」レポート

1月20日(金)にいわき信用組合主催、いわき市共催で「第3回新現役交流会」「ダイバーシティ人材のマッチング交流会」が開催されました。これは「いわしん新現役交流会」を核として、「副業を目指す方々」「外国人習生の管理団体」「障がい者の就業を支援する事業者」などの参加を得て、各事業者が抱える課題解決を目的として開催されたものです。

会場はJRいわき駅に隣接したいわき産業創造館で、コロナ対策のために会場は3カ所に分かれ、十分に間隔をとった面談コーナーは1回ごとに消毒がされていました。

開会にあたり、内田いわき市長の「地方は産業の空洞化、雇用の喪失等大変な状況にある。意欲ある企業を後押ししていく」とのご挨拶が産業振興部長からありました(代読)。

いわき信用組合の本多理事長からは「withコロナにおける企業課題の解決には新しい発想が求められている。しかしながらマーケティングや商品企画、DX対応など専門的なスキルを持つ人材は地方では少数なので、豊富な経験を持つ首都圏在住の多くの「新現役」に期待をしている。交流会はその“出会いの場”の提供です。」



挨拶される本多理事長

とご挨拶があり、続いてSKS保田代表理事から参加の新現役の方へ面談の留意事項とともに、「中小企業支援において伴走型支援がいかに重要か」とのお話がありました。

「新現役交流会」では9社から提示された課題について、経営者、支店長と53名の新現役がオンラインで面談しました。「事前に新現役から送られてきた資料が立派で、新現役に合うのは気が重い」という声もありましたが、実際に面談してみると「多様な経験を持つ方々にお会いできてよかった」「いろいろな観点からの意見、提案を聞くことができた」「二次面談に臨むための2名に絞り込むのが難しい」と嬉しい悲鳴が聞けました。面談に同席されたいわき市役所の方のお一人は少し上気した面持ちで「ある新現役との面談中に、社長の顔がパッと明るく変わるのを見ることが出来ました。」と話されていました。

いわき信用組合江尻会長の「支援制度には色々あるが、実際に面談して経営者、支店長が協議してどの新現役の方がフィットするか考え、新現役も対等の立場で支援するかしないかを決める交流会方式はスムーズに成果に繋がるのが期待できる。実際、優れた支援結果が示されている。」とのお話が印象的でした。



説明される保田SKS
代表理事



オンラインで画面上の新現役と面談される、経営者といわき信用組合支店長

文＝安永